

令和3年度

# 佐潟周辺自然環境保全計画評価シート



令和3年度 佐潟市民探鳥会

佐潟で活動する事業等の令和3年度取り組み評価シート

表. 第4期佐潟周辺自然環境保全計画の目標と取り組み項目一覧

基本的な方針	目標	取り組み項目	
<p>【基本的な方針Ⅰ】</p> <p>生態系の変化や水質汚濁など、環境上の諸問題に対しては、佐潟の自然環境が持つ浄化能力を活かした方法で解決することを基本としながら、かつて里潟として人の手が加えられていたように、人の関わりのなかで多くの動植物が生息・生育する環境を守り育てていく。</p>	<p>目標(1)多種多様な動植物が生息・生育しやすい環境づくり</p> 	<p>ア 潟固有の水生植物が生息しやすい環境をつくる</p> <p>イ 希少動植物をはじめとして、生物多様性の豊かな環境をつくる</p> <p>ウ 外来動植物が生息・生育しないための効果的な駆除対策を行う</p> <p>エ 鳥類が生息しやすい環境をつくる</p> <p>オ 魚介類が生息しやすい環境をつくる</p> <p>カ ブラックバスなどを入れさせない防止活動を進める</p> <p>キ ゾーニングの手法を用いて守り育てる環境保全方法を検討する</p>	
	<p>目標(2)佐潟及びその周辺を含めた地域環境の保全</p> 	<p>ア 緑地帯を保全する</p> <p>イ 佐潟の水質を現在より少しでも改善する</p> <p>ウ 適正な水位管理を実施する</p> <p>エ 佐潟及び御手洗潟を一体的にとらえ、その周辺を含めた広域的な保全を行う</p>	
	<p>目標(3)調査・研究結果の有効活用による自然環境保全の推進</p> 	<p>ア モニタリング調査を継続して実施する</p> <p>イ 市民団体などと連携し、動植物の生息・生育状況を調査する</p> <p>ウ 潟の研究を多面的にすすめる</p>	
	<p>【基本的な方針Ⅱ】</p> <p>先人の知恵に学び、現代の社会情勢にあった賢明な利用を目指し、地域文化に根ざした魅力ある地域づくりを推進する。</p>	<p>目標(4)昔から培われてきた賢明な利用の推進及び、佐潟やその周辺地域を核とした地域づくり</p> 	<p>ア 地域住民による潟の賢明な利用を推進する</p> <p>イ 地域文化を発掘、継承し、発信する</p> <p>ウ 佐潟の資源を活用した地域経済・地域観光の活性化を図る</p> <p>エ 佐潟及び佐潟周辺地域を核とした持続可能な地域づくりを推進する</p>
	<p>【基本的な方針Ⅲ】</p> <p>市の鳥「ハクチョウ」が飛び交う田園環境都市として、福島潟・鳥屋野潟・瓢湖といった里潟と、地域で育まれた里潟文化の発信や保全の取り組みについて、広域的に連携する。</p>	<p>目標(5)福島潟、鳥屋野潟、瓢湖などとの広域連携の推進</p> 	<p>ア 他の里潟との連携した市の鳥「ハクチョウ」が飛び交う水と緑のネットワークを活性化させる</p> <p>イ 里潟の拠点としてラムサール条約湿地や里潟文化の魅力を発信し、他の里潟のラムサール条約登録推進につなげる</p>
		<p>目標(6)佐潟水鳥・湿地センターを拠点とした質の高い活動の展開</p> 	<p>ア 自然環境の保全に向けて、市民団体や行政などが連携・協力した環境教育、啓発活動や情報発信を推進する</p> <p>イ ラムサール条約登録湿地間の連携、ガンカモ類保護ネットワークの構築を行う</p>

基本的な方針 I

生態系の変化や水質汚濁など、環境上の諸問題に対しては、佐潟の自然環境が持つ浄化能力を活かした方法で解決することを基本としながら、かつて里潟として人の手が加えられていたように、人との関わりの中で多

目標 (1) 多種多様な動植物が息息・生育しやすい環境づくり

取り組み項目：ア 潟固有の水生植物が生育しやすい環境をつくる

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R3年度事業			写真	団体名	
			開催日程	参加者数(人)	実施結果			効果と課題
ハスの生育調査	2年前から激減したハスの生育状況調査を行う。		6月～10月 (月1回程度)	1	5/24, 6/7, 6/12, 8/4, 9/22, 9/26, 10/13に調査実施。上潟および御手洗潟ではハスは旺盛に生育するが、下潟では水深の浅い場所での草に紛れて育つ苗が確認されるものの、水深の深いところでの生育は確認できなかった。	2019より下潟でハスが生育しない状況が続いている。水質の悪化（アオコの大量発生）、外来生物等による食害、水位管理の変化などが原因と考えられ、一つ一つを改善することが必要。佐潟と歩む赤塚の会と共に復活に向けたハスの育成を開始した。	(公財)新潟県都市緑花センター	
エコトーン整備	自然生態観察園に設置したエコトーンの整備と活用を行う。		6月～10月 (月1回程度)	10	5/24, 6/7, 6/12, 8/4, 9/22, 9/26, 10/13に調査および手入れを実施。昨年同様、希少種であるデンジソウ・ヤナギトラノオ・ミズアオイの生育を確認したが、水深の深いエリアではヒメガマが繁茂する他は他の植物出現は見られなかった。	希少種を保全する環境は出来上がったが、さらに種数を増やしたり、継続して環境を整えるためには、人為的なく乱や草刈り等の管理作業をもっと行う必要がある。水深の深い場所は水生植物が育てないため、佐潟の底泥を追加し、水深を浅くしつつ埋土種子の供給も行う必要がある。	(公財)新潟県都市緑花センター	
希少植物の調査	佐潟に自生する希少植物（ヤナギトラノオやミズアオイなど）の調査を行う。		6月～10月 (月1回程度)	1	5/24, 6/7, 6/12, 8/4, 9/22, 9/26, 10/13に調査を実施。重点的に保全を行っているヤナギトラノオ、サデクサ、シラスゲ、スジヌマハリイ、シロバナサクラタデ、ハンゲショウなどは例年通り確認できたが、消長の激しいオニバス、ミズアオイについては今年は生育初期にわずかに確認されたものの、繁殖サイズまで成長した個体は確認できなかった。	水生植物であるオニバスやミズアオイについては、ハスの消失と同様、水質の悪化（アオコの大量発生）、外来生物等による食害、水位管理の変化などが理由で確認できていないと思われる。特に水位管理（水位の変化）は水深の深い下潟では水生植物が育つためには必須条件であるため、再開が望まれる。	(公財)新潟県都市緑花センター	
佐潟ハス復活プロジェクト	衰退したハスの復活を目指してハス苗を育成する。 (①種を発芽処理 ②株分け、育苗、ハス田移植)	  			各人が自宅で育てたハスの苗を持ち寄り、潟のドロを入れたバケツ、トロ舟などに移し替える作業を5月29日、実施した。全部で約200株。 R2年9月末にトロ舟で育てたハスを掘り出してみたところ、小さいながら蓮根が形成されていた。霜にあたらぬようブルーシートを掛け、越冬させた。 ハス田で成長したハス（レンコン）を掘り起こして湿地センター前の潟に3月27日、16本の移植を初めて試みた。	R3年度事業では蓮根を観察舎脇の水田（320平方メートル）に植え付けて経過を観察する。下潟での再生を考えた場合、多くの苗が必要。より広範な活動とする必要がある。		佐潟と歩む赤塚の会

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R3年度事業			写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果		
佐潟ハス復活プロジェクト報告会	退したハスの復活を目指してハス苗を育成した。経緯、結果の中間報告を行う。	  	令和4年2月27日(日)	40	2021年春から本格的に取り組んできた「佐潟ハス復活プロジェクト」の報告会を開いた。連携、協力した赤塚小学校5年の児童6名が「佐潟物語・ハス復活に向けて」をテーマに総合学習の内容を発表した		佐潟と歩む赤塚の会
地域関係者との意見交換	佐潟の水位管理について意見交換を行う。	 	①令和3年10月4日(火) ②令和4年3月24日(木)	①6 ②7	【開催場所】赤塚公会堂 コミュニティ佐潟、赤塚地区自治連絡協議会、佐潟と歩む赤塚の会、環境政策課 かつて佐潟が実施していた水位管理を実施することで関係者の合意を得た。水位管理についての実施体制について確認した。		環境政策課

取り組み項目：イ 希少動植物をはじめとして、生物多様性の豊かな環境をつくる

エコトーン整備【再掲】	自然生態観察園に設置したエコトーンの整備と活用を行う。		6月～10月 (月1回程度)	10	5/24, 6/7, 6/12, 8/4, 9/22, 9/26, 10/13に調査および手入れを実施。昨年同様、希少種であるデンジソウ・ヤナギトラノオ・ミズアオイの生育を確認したが、水深の深いエリアではヒメガマが繁茂する他は他の植物出現は見られなかった。		(公財)新潟県都市緑花センター
希少植物の調査【再掲】	佐潟に自生する希少植物(ヤナギトラノオやミズアオイなど)の調査を行う。		6月～10月 (月1回程度)	1	5/24, 6/7, 6/12, 8/4, 9/22, 9/26, 10/13に調査を実施。重点的に保全を行っているヤナギトラノオ、サデクサ、シラスゲ、スジヌマハリイ、シロバナサクラタデ、ハンゲショウなどは例年通り確認できたが、消長の激しいオニバス、ミズアオイについては今年は生育初期にわずかに確認されたものの、繁殖サイズまで成長した個体は確認できなかった。	水生植物であるオニバスやミズアオイについては、ハスの消失と同様、水質の悪化(アオコの大量発生)、外来生物等による食害、水位管理の変化などが理由で確認できていないと思われる。特に水位管理(水位の変化)は水深の深い下潟では水生植物が育つためには必須条件であるため、再開が望まれる。	(公財)新潟県都市緑花センター

取り組み項目：エ 鳥類が生息しやすい環境をつくる

鳥類標識調査	環境省管轄(山階鳥研主導)の全国的な渡り鳥調査に参加し、定期的に実施する。		①令和3年4月24日～5月16日 ②令和3年10月中旬～11月上旬	5～7	①の初夏の部は4月24日～5月16日まで4回実施。②の秋の部は10月23日～11月7日まで8回実施	春の部は8種26羽、秋の部は21種834羽を標識・放鳥した。ほぼ例年並みの成績であった。	佐潟鳥類標識グループ
佐潟パトロール	上潟及び下潟において、都市公園条例にて禁止されているルアー釣り条例違反者に対し、監督・指導を行うため、パトロールを実施する。	  	6月から11月の土休日		6月から11月の土休日にルアー釣り条例違反者に対し、監督・指導を行うため、パトロールを実施した。	釣り人と思われる車を発見し、駐車車両へ注意の張り紙を行った。	西区建設課

目標（２）佐潟及びその周辺を含めた地域環境の保全

取り組み項目：ア 緑地帯を保全する

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R3年度事業			写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果		
西区佐潟公園樹木芝生等管理業務委託	公園を構成している植物の生理・生態的特徴を十分理解して健全な育成を図り、植物空間の充実・完成をさせ、公園機能を維持するために技術的管理を行う。	15 17	令和3年4月28日から令和4年3月11日まで		令和3年4月28日から令和4年3月11日までの期間に樹木芝生等の維持管理を継続的に実施した。	植物の健全な育成に必要な維持管理を行うことで、公園機能を確保し、公園利用者への環境整備を図った。	西区建設課

取り組み項目：イ 佐潟の水質を現在より少しでも改善する

水質調査	佐潟5カ所、御手洗潟3カ所について毎月1回水質測定を行う。	6	毎月1回		佐潟5カ所、御手洗潟3カ所について毎月1回水質測定を実施した。	水環境の把握とともに保全のための基礎資料とする。	環境対策課
身近な水環境の全国一斉調査	世界環境デーに合わせて全国で河川、湖沼の水質調査を一斉に行う。	6	令和3年6月1週	25	新潟市の河川及び他の潟と比較し、御手洗潟と佐潟の水質が悪い状態が続いている。	水質悪化の原因を探ると共に、アオコ発生を将来無くすための対策を、早急に実施する事が求められている。それと併せ、佐潟の水の出口となっているの佐潟橋下のヘドロ堆積の除去をやらなければならない。	新潟水辺の会
地域関係者との意見交換【再掲】	佐潟の水位管理について意見交換を行う。	6 15	①令和3年10月4日（火） ②令和4年3月24日（木）	①6 ②7	【開催場所】赤塚公会堂 コミュニティ佐潟、赤塚地区自治連絡協議会、佐潟と歩む赤塚の会、環境政策課	かつて佐潟が実施していた水位管理を実施することで関係者の合意を得た。水位管理についての実施体制について確認した。	環境政策課

取り組み項目：エ 佐潟及び御手洗潟を一体的にとらえ、その周辺を含めた広域的な保全を行う

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R3年度事業			写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果		
佐潟周辺自然環境保全連絡協議会の開催	佐潟に関わる団体や有識者から出席いただき、佐潟に関する様々な取組みの報告や保全と賢明な活用に向けた検討を行う。	11 15 17	第32回 令和3年4月7日(水)※書面開催  第33回 令和3年9月10日(金)※報告のみ書面 令和3年10月12日(火)※議題はハイブリッド	第33回：22	令和3年4月7日に第32回佐潟周辺自然環境保全連絡協議会を書面開催した。 新型コロナウイルス対策のため、第33回佐潟周辺自然環境保全連絡協議会は報告のみ先に書面で行い、議題をハイブリッド形式で開催した。	水質改善や生物多様性の保全のために、かつて佐潟が実施していた水位管理を実施することについて議論を行った。今後は、佐潟水鳥・湿地センター前に設置した水位計測結果を関係者へ共有し、ハスの復活に対する効果やアオコの発生への影響を確認することが必要。また、水位管理以外に水質改善に向けた取り組みについて検討が必要。	環境政策課

目標（３）調査・研究結果の有効活用による自然環境保全の推進

取り組み項目：イ 市民団体などと連携し、動植物の生息・生育状況を調査する

新潟県水鳥湖沼ネットワークとの連携	新潟県水鳥湖沼ネットワークからの情報提供を受け、調査結果を本市のホームページでも紹介した。		令和3年10月～令和4年3月		毎週金曜日に市内4地点でハクチョウ、ガン類の飛来数調査を実施している新潟県水鳥湖沼ネットワークから情報提供を受け、活動内容や調査結果を運営する潟のデジタル博物館で紹介し、情報発信を行った。	本市に飛来するハクチョウの動向を随時発信することができた。		環境政策課
希少植物の調査【再掲】	佐潟に自生する希少植物（ヤナギトラノオやミズアオイなど）の調査を行う。		6月～10月 (月1回程度)	1	5/24, 6/7, 6/12, 8/4, 9/22, 9/26, 10/13に調査を実施。重点的に保全を行っているヤナギトラノオ、サデクサ、シラスゲ、スジヌマハリイ、シロバナサクラタデ、ハンゲショウなどは例年通り確認できたが、消長の激しいオニバス、ミズアオイについては今年は生育初期にわずかに確認されたものの、繁殖サイズまで成長した個体は確認できなかった。	水生植物であるオニバスやミズアオイについては、ハスの消失と同様、水質の悪化（アオコの大量発生）、外来生物等による食害、水位管理の変化などが理由で確認できていないと思われる。特に水位管理（水位の変化）は水深の深い下潟では水生植物が育つためには必須条件であるため、再開が望まれる。		(公財)新潟県都市緑花センター

基本的な方針Ⅱ

先人の知恵に学び、現代の社会情勢にあった賢明な利用を目指し、地域文化に根ざした魅力ある地域づくりを推進する。

目標（４）昔から培われてきた賢明な利用の推進及び、佐潟やその周辺地域を核とした地域づくり

取り組み項目：ア 地域住民による潟の賢明な利用を推進する

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R3年度事業			写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果		
ラコテ赤塚	佐潟水門下ゴミ拾いを行う。		令和3年4月11日(日)	11	不法投棄のタイヤなどを回収し、1時間ほどで終了		佐潟と歩む赤塚の会
佐潟クリーン活動	関係団体、企業、地域の方々と協働して、佐潟のクリーン活動及び緑化活動を行う。		令和3年6月28日(月) 令和3年10月1日(金)	180 180	6月は、全校生徒で佐潟の泥上げ、ヨシ集め、ゴミ拾い、花壇の除草をした。10月は公園の花壇にチューリップの球根(2500球)を植えた。これらの活動に当たっては、企業や関係団体から協力いただいた。	生徒は、佐潟の環境を整え守っていくことの意義を学んだ。チューリップは、春に佐潟を訪れる市民や観光客の目を楽しませた。例年小学校と一緒に活動しているが、コロナ感染拡大防止のため、中学校のみで行った。	赤塚中学校
佐潟クリーンアップ活動	水門付近の保全、ハス田への泥上げなどを通して佐潟の現状を確認する。		令和3年9月25日(土)～26日(日)	約200	新型コロナウイルスの影響を受けて中止	コロナ禍で参加者を募っての活動は困難なため、当会のメンバーなどで9月26日、水門付近の保全活動などを実施した。16人参加。	佐潟と歩む赤塚の会

事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R3年度事業			写真	団体名	
			開催日程	参加者数(人)	実施結果			効果と課題
春の潟普請	上潟を中心に散策しながらゴミを回収する。	 	令和4年3月27日(日)	13	R2年はコロナ禍で中止、2年ぶりに実施した。上潟から2班に分かれて散策。軽トラの荷台には空き缶や農薬缶を積み込んだ。		佐潟と歩む赤塚の会	
佐潟ハス復活プロジェクト【再掲】	衰退したハスの復活を目指してハス苗を育成する。 ①種を発芽処理 ②株分け、育苗、ハス田移植	  	①令和3年4月25日(日) ②令和3年5月29日(土) ③令和4年3月27日(日)	①15 ②19 ③21	各人が自宅で育てたハスの苗を持ち寄り、潟のドロを入れたバケツ、トロ舟などに移し替える作業を5月29日、実施した。全部で約200株。 R2年9月末にトロ舟で育てたハスを掘り出してみたところ、小さいながら連根が形成されていた。霜にあたらないようブルーシートを掛け、越冬させた。ハス田で成長したハス(レンコン)を掘り起こして湿地センター前の潟に3月27日、16本の移植を初めて試みた。	R3年度事業では連根を観察舎脇の水田(320平方メートル)に植え付けて経過を観察する。下潟での再生を考えた場合、多くの苗が必要。より広範な活動とする必要がある。		佐潟と歩む赤塚の会
佐潟ハス復活プロジェクト報告会【再掲】	退したハスの復活を目指してハス苗を育成した。経緯、結果の中間報告を行う。	  	令和4年2月27日(日)	40	2021年春から本格的に取り組んできた「佐潟ハス復活プロジェクト」の報告会を開いた。連携、協力した赤塚小学校5年の児童6名が「佐潟物語・ハス復活に向けて」をテーマに総合学習の内容を発表した			
佐潟パトロール【再掲】	上潟及び下潟において、都市公園条例にて禁止されているルアー釣り条例違反者に対し、監督・指導を行うため、パトロールを実施する。	  	6月から11月の土休日		6月から11月の土休日にルアー釣り条例違反者に対し、監督・指導を行うため、パトロールを実施した。	釣り人と思われる車を発見し、駐車車両へ注意の張り紙を行った。	西区建設課	
潟舟体験(佐潟まつり)	潟舟で湖面に繰り出して佐潟を感じる。ハス、オニバスなどの水生植物を観察する。	  	令和3年8月28日(土)	20	潟舟運行を予定したが、強風のため実施できなかった。		佐潟と歩む赤塚の会	

取り組み項目：イ 地域文化を発掘、継承し、発信する

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R3年度事業			写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果		
ラコテ赤塚 【再掲】	佐潟水門下ゴミ拾いを行う。	 	令和3年4月11日(日)	11	不法投棄のタイヤなどを回収し、1時間ほどで終了		佐潟と歩む赤塚の会
佐潟クリーン活動 【再掲】	関係団体、企業、地域の方々と協働して、佐潟のクリーン活動及び緑化活動を行う。		令和3年6月28日(月) 令和3年10月1日(金)	180 180	6月は、全校生徒で佐潟の泥上げ、ヨシ集め、ゴミ拾い、花壇の除草をした。10月は公園の花壇にチューリップの球根(2500球)を植えた。これらの活動に当たっては、企業や関係団体から協力いただいた。  生徒は、佐潟の環境を整え守っていくことの意義を学んだ。チューリップは、春に佐潟を訪れる市民や観光客の目を楽しませた。例年小学校と一緒に活動しているが、コロナ感染拡大防止のため、中学校のみで行った。		赤塚中学校
佐潟クリーンアップ活動 【再掲】	水門付近の保全、ハス田への泥上げなどを通して佐潟の現状を確認する。	  	令和3年9月25日(土)～26日(日)	約200	新型コロナウイルスの影響を受けて中止  コロナ禍で参加者を募っての活動は困難なため、当会のメンバーなどで9月26日、水門付近の保全活動などを実施した。16人参加。		佐潟と歩む赤塚の会
佐潟ハス復活プロジェクト報告会 【再掲】	退したハスの復活を目指してハス苗を育成した。経緯、結果の中間報告を行う。	  	令和4年2月27日(日)	40	2021年春から本格的に取り組んできた「佐潟ハス復活プロジェクト」の報告会を開いた。連携、協力した赤塚小学校5年の児童6名が「佐潟物語・ハス復活に向けて」をテーマに総合学習の内容を発表した		佐潟と歩む赤塚の会
春の潟普請 【再掲】	上潟を中心に散策しながらゴミを回収する。	 	令和4年3月27日(日)	13	R2年はコロナ禍で中止、2年ぶりに実施した。上潟から2班に分かれて散策。軽トラの荷台には空き缶や農薬缶を積み込んだ。		佐潟と歩む赤塚の会

取り組み項目：ウ 佐潟の資源を活用した地域経済・地域観光の活性化を図る

事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R3年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
潟舟体験	潟舟で湖面に繰り出して五感で佐潟を感じる。ハス、オニバスなどの水生植物を観察する。	   	①令和3年6月20日(日) ③令和3年7月22日(木・祝) ④令和3年9月19日(日) ⑤令和3年10月10日(日)	6/20 3人 7/22 10人 9/19 20人 10/10 33人	潟舟に乗船した市民は湖面からの景観を堪能できた。強風、悪天候で運行中止、日程変更が度々発生した。	コロナ禍での運行のため、乗客毎に手すりを清掃するなど除菌対策を行った。		佐潟と歩む赤塚の会
ハクチョウ観察会	ハクチョウの飛び立ち、着入りを観察する。	 	令和4年1月15日(土)		中止			佐潟と歩む赤塚の会
潟舟体験(佐潟まつり) 【再掲】	潟舟で湖面に繰り出して佐潟を感じる。ハス、オニバスなどの水生植物を観察する。	  	令和3年8月28日(土)	20	潟舟運行を予定したが、強風のため実施できなかった。			佐潟と歩む赤塚の会

基本的な方針Ⅲ

市の鳥「ハクチョウ」が飛び交う田園環境都市として、福島潟・鳥屋野潟・瓢湖といった里潟と、地域で育まれた里潟文化の発信や保全の取り組みについて、広域的に連携する。

目標（5）福島潟、鳥屋野潟、瓢湖などとの広域連携の推進

取り組み項目：ア 他の里潟との連携した市の鳥「ハクチョウ」が飛び交う水と緑のネットワークを活性化させる

事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R3年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
令和3年度佐潟市民探鳥会	世界湿地の日の関連事業として、にいがた野鳥の会を講師に迎え、水鳥を始めとした冬鳥の観察会を開催する。		令和4年1月16日(日)	10	新型コロナウイルス感染対策のため、令和3年度は参加者定員を設けて実施した。にいがた野鳥の会(探鳥指導員)3名を講師に迎え、当日は24種類の鳥類を確認することができた。	探鳥会を通して、佐潟の魅力を伝えることができた。 佐潟では探鳥会が定期的に行われていることから令和4年度佐潟市民探鳥会の事業は廃止とした。		環境政策課
新潟県水鳥湖沼ネットワークとの連携【再掲】	新潟県水鳥湖沼ネットワークからの情報提供を受け、調査結果を本市のホームページでも紹介した。		令和3年10月～令和4年3月		毎週金曜日に市内4地点でハクチョウ、ガン類の飛来数調査を実施している新潟県水鳥湖沼ネットワークから情報提供を受け、活動内容や調査結果を運営する潟のデジタル博物館で紹介し、情報発信を行った。	本市に飛来するハクチョウの動向を随時発信することができた。		環境政策課

取り組み項目：イ 里潟の拠点としてラムサール条約湿地や里潟文化の魅力を発信し、他の里潟のラムサール条約登録推進につなげる

潟シンポジウムの開催	里潟の取り組みを多くの人に知ってもらうためのシンポジウムを開催する。		未実施	—	新型コロナウイルスの影響でCOP14が延期となり、湿地自治体認証の決定が延期したことから潟シンポジウムを未実施とした。	—		環境政策課
------------	------------------------------------	---	-----	---	---	---	--	-------

目標（6）佐潟水鳥・湿地センターを拠点とした質の高い活動の展開

取り組み項目：ア 自然環境の保全に向けて、市民団体や行政などが連携・協力した環境教育、啓発活動や情報発信を推進する

事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R3年度事業			写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果		
佐潟自然散歩	ボランティア解説員の案内で佐潟を散策し、野鳥や植物、昆虫を観察する。	 	3月～10月までの毎月第2、4土曜日（9月第2土曜日は中止：新型コロナウイルス感染症特別警報に伴い、9月3日（金）～16日（木）一時休館による）	235	佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を散策し、野鳥や植物、昆虫を観察した。	佐潟ボランティア解説員の解説を聞きながら、佐潟の自然を感じてもらえた。	佐潟水鳥・湿地センター
佐潟写真展	佐潟周辺の自然や景色の写真を公募し、展示する。	 	令和3年10月1日（金）～令和3年10月17日（日）	16	応募者数16名、応募者点数28点、自然豊かな佐潟を写真撮影した作品を募集し展示した。	自然の宝庫である佐潟周辺で撮影した写真を来館者に観ていただき感動を与えた。	佐潟水鳥・湿地センター
小鳥さえずる佐潟で春散歩	ボランティア解説員の案内で春の佐潟を散策し、野鳥を観察する。	 	令和3年4月17日（土）	15	佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を歩き、春の小鳥の声や姿を観察した。	参加者と野鳥を探しながら自然に関心に向け、佐潟の自然環境に生息する野鳥を観察しながら潟と自然の魅力を伝えた。季節の変化による自然情報を収集し、今後の活動推進に向ける。	佐潟水鳥・湿地センター
佐潟探検隊（さかたん）	小学生に佐潟で自然体験を通し、自然豊かな佐潟の魅力を感じてもらうための通年企画。第1回は風つくり風あげを実施。第2回は水辺の生き物観察・潟舟体験の開催。第3回は焼き物の皿つくりを実施する。第4回は冬鳥観察会、修了式を行う。	 	令和3年5月29日（土） 令和3年8月21日（土） 令和3年9月18日（土） 令和3年11月20日（土）	各回10名 合計40名	子供たちが佐潟で野鳥や植物、昆虫と触れ合うことで潟環境を理解し、生態系を大切にすることを身に着けられるような自然体験活動を行った。（小学2年から6年生）	自然豊かな佐潟の魅力を感じてもらうことにより、これまでの佐潟、これからの佐潟を子供たちの目線からの体験により学習の財産となるように模索し子供育成に貢献する。	佐潟水鳥・湿地センター
佐潟探検隊・サカタン	風作り風あげ、潟舟を体験しよう	  	令和3年5月29日（土）	10	風つくりではしろね大風と歴史の館、潟舟体験では佐潟と歩む赤塚の会が協力した。残念ながら潟舟体験は強風のため中止となった		佐潟と歩む赤塚の会
初夏の植物観察会	ボランティア解説員の案内で佐潟を散策し、初夏の植物を観察する。	 	令和3年6月5日（土）	15	佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を歩き、初夏の植物を観察した。	初夏の植物等の自然解説を聞きながら自然に親しみ自然豊かな佐潟の魅力を感じてもらえた。	佐潟水鳥・湿地センター

事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R3年度事業			写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果		
潟舟体験（佐潟まつり） 【再掲】	潟舟で湖面に繰り出して佐潟を感じる。ハス、オニバスなどの水生植物を観察する。	  	令和3年8月28日（土）	20	潟舟運行を予定したが、強風のため実施できなかった。		佐潟と歩む赤塚の会
佐潟探検隊・サカタン	水辺の生きもの観察、潟舟体験しよう	  	令和3年8月21日（土）	10	延期となった潟舟体験をは8月21日の第2回「水辺の生きもの観察」の開催にあわせて実施した。		佐潟と歩む赤塚の会
水辺の生きもの観察教室	ボランティア解説員の案内で佐潟の水辺の生きものを観察する	 	令和3年7月3日（土）	9	佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を歩き、水辺の生きものを観察した。	佐潟周辺で見られる生きものを採取・観察し、水辺の生きものについて知ってもらい、自然環境の大切さを感じてもらった。	佐潟水鳥・湿地センター
夏休み佐潟昆虫観察会	ボランティア解説員の案内で夏の佐潟の昆虫を観察する。	 	令和3年7月31日（土）	9	佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を歩き、昆虫を観察した。	佐潟にすむ昆虫の観察を通じて、小学生に佐潟の昆虫に関心を持ってもらった。	佐潟水鳥・湿地センター
秋の佐潟昆虫観察会	ボランティア解説員の案内で秋の佐潟の昆虫を観察する。	 			新型コロナウイルス感染症特別警報に伴い、9月3日（金）～16日（木）一時休館のため中止		佐潟水鳥・湿地センター
佐潟探鳥散歩	ボランティア解説員の案内で佐潟を散策し、野鳥や植物、昆虫を観察する。	 	11月～2月までの第2、4土曜日（1月第4、2月：新型コロナウイルスまん延防止等重点措置の延長に伴い、1月21日（金）～3月6日（日）まで臨時休館のため中止）	62	佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を散策し、野鳥を観察した。	佐潟ボランティア解説員の解説を聞きながら、佐潟の自然を感じてもらえた。	佐潟水鳥・湿地センター
冬鳥ウオッチング	ボランティア解説員の案内で佐潟の冬鳥を観察する。	 	令和3年12月4日（土）	9	佐潟公園で佐潟ボランティア解説員の案内の下、野鳥観察を行う。	佐潟ボランティア解説員から冬鳥の解説を聞きながら佐潟周辺を散策し、冬鳥が多く飛来する佐潟の魅力を感じてもらえた。	佐潟水鳥・湿地センター

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R3年度事業			写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果		
佐潟文化祭	佐潟に関する絵、写真、書、俳句等の作品を募集し展示する。	 	令和4年3月8日(火)～3月27日(日)	26	応募者数26名、応募点数46作品 (写真29点、書12点、イラスト2点、手芸2点、彫刻1点)	佐潟に魅力を感じている佐潟リピーターや来館者に作品発表の場を提供した。来館者に佐潟の魅力発見や癒しの場として楽しんでもらった。	佐潟水鳥・湿地センター
クラフト教室・佐潟の松ぼっくり妖精	佐潟で採取した植物を使用し、想像の生き物を作る。	 	令和3年11月13日(土)	9	佐潟の松ぼっくりや小枝、ドングリ、トバスなどで、佐潟に住んでいそうな想像の生きものを作って楽しんだ。	佐潟で採取した材料で工作を行うことにより自然に親しみ、自然豊かな佐潟の魅力を感じてもらえた。	佐潟水鳥・湿地センター
早春の佐潟を歩こう	ボランティア解説員の案内で早春の佐潟で植物や野鳥を観察しながら散策する。	 	令和4年3月19日(土)	9	佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を散策し、植物や野鳥を観察した。	早春の植物や野鳥などの自然解説を聞きながら自然に親しみ自然豊かな佐潟の自然を感じてもらえた。	佐潟水鳥・湿地センター